

保育士のための保育所 東京、育児による離職防ぐーピノコーポレーション、4月に

2018/03/07 11:30 日本経済新聞電子版ニュース 655文字

首都圏で保育所38園を展開するピノコーポレーション（東京・杉並）は4月、自社で働く保育士の子どもを預かる保育所を東京都内に開設する。保育の仕事と子育てを両立できる環境を整え、育児による離職を防ぐ。待機児童問題の解消には、保育士確保が不可欠。保育士の子ども向けの保育所は珍しく、新たな人材確保策として広がる可能性がありそうだ。

同社が開設するのは「ピノキオ幼児舎 吉祥寺アネックス」（武蔵野市）。内閣府が待機児童対策の柱に据えた「企業主導型保育所」の制度を使い、従業員である保育士の子どもを預かる。0～2歳児が対象で定員は15人。7人分は近隣住民へ開放し、保育士枠は8人の予定だ。

同園は大東京信用組合（東京・港）吉祥寺支店の建て替えビルに入居する。同信組の柳沢祥二理事長は「待機児童の深刻さを知り、保育所を誘致した。保育士のための園ならばなお意義深い」と話す。

希望の保育所に入れない待機児童は2017年4月現在、2万6081人にのぼる。保育士不足で施設を増やせないことが原因の一つ。資格がありながら働いていない「潜在保育士」は全国に約80万人おり、賃金の低さに加え、子育てとの両立が難しいことが離職の原因となっていた。

これまででも、保育事業者が自社の園に空きがあった場合、優先的に保育士の子どもを入所させることはあった。国も17年9月、保育士の子どもを優先入所させるよう自治体に通知するなど、保育士の子育て支援を強化し始めている。ピノコーポレーションではこれを上回る対策で保育士確保につなげたい考えだ。



保育士の子ども向けの保育所は珍しかった

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.